

保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

目 的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

- 成 果**
1. イタリア中部地震における壁画を有する被災建造物に関する調査 (2017 (平成29) 年4月19日～28日)
 2. ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究
 - ア) 煉瓦造寺院 (Me-taw-ya 寺院) の外壁調査と保存修復方法の研究 (2017 (平成29) 年7月7日～31日) (2018 (平成30) 年1月23日～2月13日)
 - イ) バガンでの「ミャンマー宗教・文化省主催 第10回バガン遺跡の地震被害に関する専門家会議」への出席 (2017 (平成29) 年7月27日)
 - ウ) 考古国立博物館局バガン支局での合同会議への出席 (2017 (平成29) 年7月28日)
 - エ) バガン王朝期における壁画技法と図像学に関する調査 (2017 (平成29) 年7月10日～22日) (2018 (平成30) 年1月23日～2月3日)



Me-taw-ya (No.1205) 寺院



震災による被災箇所への処置風景

- 発 表** ・Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti : A Report on the Previous Survey at Me-taw-ya(No.1205) Temple, The 10th Expert Meeting on Earthquake Damage to the Bagan Archaeological Site 17.7.27
- ・Maria Letizia Amadori, Daniele Angellotto, Yoshifumi Maekawa, Denis Zanetti, Paola Fermo, Francesco Maria Mini, Valentina Raspugli : Preliminar Scientific Investigations on Constitutive Materials from temple n.1205, Bagan Valley (Myanmar). TECHNART 2017 -Non-destructive and microanalytical techniques in art and cultural heritage 17.5.2-6
 - ・嶋原由美ほか「ミャンマー・バガン遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—壁画を構成する材料調査と傷みの原因—」文化財保存修復学会第39回大会 金沢歌劇座 17.7.1-2
- 刊行物** ・『A Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205. Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar』東京文化財研究所 18.3

研究組織 ○加藤雅人、前川佳文、増渕麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、嶋原由美(保存科学研究センター)